

米人の日本観につき在米中得たる感想

農学博士 法学博士 新渡戸 稲造

今回、〈夏季特別企画〉として戦前の経済倶楽部講演会から新渡戸稲造氏の講演を掲載します。新渡戸氏は国際連盟事務次長になるなど国際的に活躍された思想家ですが、札幌農学校では昨年講演録の〈夏季特別企画〉に掲載した大島正健氏の一年後輩にもあたります。講演内容は昭和6年9月に起こった満州事変後に滞在中の米国で経験した対日輿論についての考察および日本の取るべき言動についてです。講演の終盤で、8月にカナダで行われる太平洋問題会議に参加し日本を擁護する発言をしたいと話しています。同氏は会議終了後の10月に彼の地で亡くなりましたので、その意味で経済倶楽部での講演は貴重なものになっていると考えます。

(用語は一部現在の表記に変えています)

渡米の目的

新婦朝という御紹介を各所で戴きますが、最早帰りましてからちょうど一カ月になります。ただいまの御紹介の御言葉にもあったように、せんだつてから、しばしばあらゆる種類の会合でお求めに応じては、同じ様な事を繰返し、喋っております。ちょうど昨年四月に渡米いたし、六カ月間滞在の予定であったのが、帰途カリフォルニアの二三の大学から引留められまして、さらに五カ月滞在を延ばし、約一年にして帰朝いたしました。

今回渡米した目的は、単にアメリカの国情を視察するというだけでなく、この満洲事件勃発以来、アメリカの対日輿論が非常に悪化し、

ことに上海事件から一層甚しかったのであります。それで、ただこのままに置く訳には行くまいという有志の友人からの頼みがありまして渡米しました。さればと言って、全く個人の資格で行くことは、私の資力財力が許さぬのであります。有志の友人は金の方は心配ないから、とにかく行けと頻りに薦めました。然るに一体私は、十年前からかの地に移民法が行われている間は、二度とアメリカに行かぬと頑張っておつて、かれこれ前後十回も大学その他の団体から招待を受けたこともありましたが、これを拒んでおりました。然るに、今回は如何にも対日感情が悪くなって、このままにして置いてはどういう成行になるか、この先が心配だという人が友人の中に大分あり、また当局にもその